

自動火災報知設備の非火災警報の頻発について

2017.7.27

東京電力ホールディングス株式会社

TEPCO

自動火災報知設備の非火災警報の頻発について

■ 火災警報発報時の対応（非火災の場合）

火災警報が発報した際、復旧班長は火災警報の連絡を受け次第、消防署に電話連絡をしている。同時に自衛消防隊を出向させる。自衛消防隊は自動火災報知設備受信機で発報した感知器の場所を確認し、現地で火気の有無を確認し消防署員に報告している。消防署員は発電所に到着次第、感知器が発報した現場の状況を確認し非火災の判断をしている。

（6月以降に発生している非火災発生事象と原因について）

■ 固体廃棄物貯蔵庫（6, 7, 8号棟）地下1, 2階感知器発報

夏季の水分を多く含んだ空気が地下通路などに流入し、地下躯体で冷やされて結露している。地下天井に付着した結露水が感知器に伝わり発報している。
（地下躯体は広範囲に結露水が水滴の状態が付着しており、他の感知器でも誤発報する可能性がある状態）



TEPCO

(昨年との違い)

1. この通路は現在、固体廃棄物貯蔵庫 9 号棟とつながっている。
当該通路を利用して固体廃棄物貯蔵庫 9 号棟工事用の資器材搬入用車両が通過している。
2. 固体廃棄物貯蔵庫 9 号棟の工事で躯体（コンクリート床など）を乾燥させるために固体廃棄物貯蔵庫 9 号棟側の送風機で吸気していたため、この通路が空気の通り道になっていた。

(対応策)

1. 地上の高湿度の空気が地下に流入しにくいように、通路途中のシャッターを閉める運用をする。
2. 地下 2 階のシャッターを開けた際に空気が入りにくくするため、エアーカーテンを設置する。
3. 地下 1 階天井（地上 1 階床面）にある開口部を塞ぎ、地上と地下 1 階の空気の流れを遮断する。

(対策中の感知器の扱い)

7 / 2 4 所轄消防（浪江消防署）に相談し、地下の結露する環境が改善するまでの間は 6, 7, 8 号棟の感知器は警戒除外とする。（7 / 2 4 実施済）

■ **自動車整備場火報信号発報（7 / 2 2 発生）**

雷サージにより受信機が故障した。感知器の動作なし。
（対応策）受信機を更新する。（手配中）

■ **登録センター火報信号発報（7 / 2 2 発生）**

登録センター受信機に移報接続されている協力企業の建物の受信機が雷サージにより故障した。感知器の動作なし。
（対応策）受信機を修理（基盤交換）する。

■ **企業センター厚生棟プレファブ休憩所火災信号発報（7 / 1 3, 1 9 発生）**

感知器にホコリが付着したことによる非火災警報
（対応策）休憩所内の感知器取替を実施中。